[MONTHLY DROP Nov.2026]

2026年10月29日

移ろう季節を、箱に仕舞う。日本の美意識を現代に届ける「季節箱」

日本発の家具・インテリアブランド「AREA」（株式会社 NODA Japan）は、移ろう季節を愛でる日本の文化を現代の暮らしに取り戻すためのプロダクト「季節箱」を発表します。桐の総無垢で仕立てた箱の中には、日本のアーティストによる季節の風物詩を表現したアートピースを収蔵。しまい、取り出し、飾るという行為を通して、日常の中に四季の豊かさと静かな情緒をもたらします。



「季節箱」

日本人ほど四季を意識する民族は少ないと言われます。同じ緯度であれば、どの国にも四季はあります。しかし日本は、特殊な気候帯、南北に長い列島形状、背骨に山脈を持ち、海に囲まれた島であること、などの理由から、春夏秋冬の区切りが劇的なほど明確になります。そんな理由から、我々日本人は季節の移ろいを意識せざるを得なかったのだ、と言われています。ジメジメとした夏が終わり、ある日北風を感じる。ふと見上げるとガスのモヤが晴れ、クッキリと浮かぶ富士山や夜の月。だからこそ、日本人はそれに心を動かされ、そんな目の前の愛おしい小さな奇跡を歌に詠んだり、祭りを催したり、季節ごとの文化を創り上げてきたのです。





しかし現代になり、文明の利器が浸透して涼しい夏、暖かい冬が当たり前になると、我々は季節の移ろいに鈍感になってしまいます。
例えば、暑い夏を、せめて涼やかな風鈴の音で紛らわそう、などという風物詩が少しずつ失われていくわけです。雛人形も兜もどこにもしまう所がないよ、昔はお蔵や屋根裏みたいな場所があったんだろうけど。そんな事情もあるでしょう。











移りゆく季節を賛美し、いわれのアートを飾る。日本の、特に大都市から、そんな季節を愛でる細やかな文化が失われるのは忍びない、そう日本の職人が考えて作ったのが、この季節箱です。お蔵の隅にひっそりと保管されている小さな箱をイメージしてデザインされた、この桐の無垢材で作った宝箱には、日本のアーティストによる季節の風物詩が詰め込まれています。この箱を部屋のどこかに設置して、3 月になればお雛様を、9 月になれば彼岸花など、季節ごとに箱の中からアートピースを取り出して、台の上に飾ってください。季節の移ろいを感じ、あなたの日々の日常に、ほんの少しでも、優しさや愛しさの明かりが灯れば幸いです。



季節箱
材　質：桐柾目無垢材
サイズ：W500 D500 H495 (mm)
価　格：88,000 円（税込 96,800 円）



base of something
材　質：タモ無垢材
サイズ：W300 D300 H120 (mm)
価　格：38,000 円（税込 41,800 円）

ブランド紹介
AREA は 2003 年に創業したインテリアブランドです。厳選された素材を熟練の職人が一品ずつ丁寧に一生モノの家具へと仕立てる作風と、ヘッドデザイナーである野田 豪が創出する独特の世界観が融合した作品群は、2025 年 DNA Paris Design Awards Winner、2026 年 NYCxDESIGN Awards Winner を受賞するなど、ニューヨーク、パリ、東京など世界で活動を広げています。

ぜひこの機会を貴媒体にてご紹介ください。ご取材・掲載のご検討を心よりお待ちしております。

【お問い合わせ先】株式会社 NODA Japan　担当：岡根　電話番号：03-3479-5553　e-mail : press@area-japan.co.jp

季節箱収蔵品１月 -6 月

各界を代表するアーティスト、工房の手による作品を「季節箱」にセレクトしました。
季節箱に納めるアイテムは、一品ずつお好みでお選びいただけます。



１月 鎌倉鏡餅

価格：18,000 円（税込 19,800 円）

古都鎌倉出身のご夫婦が能登島のガラス工房で経験を積み、自然豊かな鎌倉極楽寺の地で窯を作るところから始めた、手作りの鏡餅。ころんとしたフォルムに吹きかけたガラスの粒子が、まるで雪のような優しい風合いで、光が差すとより一層美しさが際立ちます。晴れやかな気持ちで良い一年を迎えることができそうです。



２月 みちのく鬼面

価格：赤白一対 12,000 円（税込 13,200 円）

みちのく会津に古くから伝わる郷土玩具の多くは、身近な紙、土、木、わら、竹などを材料とし、子育て・開運・商売繁盛・五穀豊穣を祈願して作られてきました。特に鬼というモチーフは、古来日本で邪気を払い、災いから人々を守る存在として捉えられてきました。その土地の昔からの暮らしや懐かしい物語を織り込んだような、素朴な温かさが伝わってきます。



３月 座り雛

価格：男雛女雛一対 150,700 円（税込 165,770 円）

節句の飾りは季節の節目に心を整え、家族の幸せや健やかな成長を祈る日本の美しい風習です。職人の手で形作られる美しい白磁器から、ひとつひとつ手仕事にこだわり、移ろう自然の色彩を絵具に重ねて、丁寧に丁寧に、唯一無二のお雛様ができあがります。日本の伝統美を、一体の節句飾りに込めて。時を重ねても色あせない美しいお雛様が、大切な宝物として皆さまの暮らしの中で永く愛されますように。



４月 壺花入

価格：27,500 円（税込 30,250 円）

小さく可憐な蕾から、幽玄の美を湛える満開の姿、水面を彩る花筏まで。桜は、その移ろいゆく一瞬一瞬が、私たち日本人にとって特別な花。春だけのご褒美のようなその美しさを、少しでも長く愛でていたいものです。そんな一枝の桜をやさしく引き立てながら、静かで凛とした存在感を放つ、白い壺貫入の花入。陶芸家と AREA が、こだわり抜いた特別な逸品です。



５月 五月兜

価格：兜飾り 1 点 93,500 円（税込 102,850 円）

端午の節句に飾られる兜は、子どもを災いから守り、健やかな成長を願う日本の美しい風習として受け継がれてきました。そんな節句飾りを現代の暮らしに寄り添うかたちで表現し、若葉色、撫子色、金色をあしらった AREA 限定の五月兜。春のぬくもりを感じさせる彩りに、子どもたちの健やかな成長と家族の幸せへの願いを込めました。



６月 紫陽花ブーケ

価格：25,000 円（税込 27,500 円）

六月の雨に濡れ、静かに色づく紫陽花。万葉集には、幾重にも咲くその姿に、末永い繁栄への願いを重ねた歌が残されています。ステンドグラス作家 nido が手がける紫陽花は、青と紫のガラスをひとつひとつ丁寧に組み上げられ、時間とともに移り変わる花の色が息づいています。雨に濡れた花びらを思わせる、ガラスの艶やかな光沢と紫陽花の瑞々しさ。光の移ろいとともに表情を変える、小さなアートです。

季節箱収蔵品 7 月 -12 月



7月 京うちわ

価格：25,000 円（税込 27,500 円）

古来うちわは涼をとるだけでなく、その風で魔を打ち払うともいわれ、縁起物でもありました。繊細で優雅な京うちわは「都うちわ」とも呼ばれ、宮廷でも用いられてきました。京都の豊かな風土と文化に育まれた高度な技術を今日に伝え、90 ～ 120 本の骨を細かく並べた上に、四季折々の花鳥風月を繊細な切り絵細工で施しています。奥行きのある風景を映し出す、目で楽しむうちわです。



8 月 置き風鈴

価格：16,000 円（税込 17,600 円）

日本では古くから、風鈴の音色に涼を感じ、夏の風物詩として親しまれてきました。神奈川県小田原市の鋳物の技と、静岡県に受け継がれる竹細工の技が息づく、真鍮の風鈴と竹細工の風鈴立て。竹ひごの隙間を風が通り、短冊がそよぐ様子と、落ち着きのある澄んだ音色が、夏のひとときに穏やかな趣を添えます。真田紐をあしらった専用の桐箱入りです。



9 月 彼岸花

価格：38,000 円（税込 41,800 円）

秋のお彼岸の頃、野辺を鮮やかな赤に染める彼岸花。曼珠沙華とも呼ばれ、古くから日本の秋の風景に親しまれてきました。反り返る花びらの曲線や、繊細に伸びるおしべの姿を、赤いガラスをひとつひとつ丁寧に組み合わせて形にしています。真鍮の土台からすっと伸びる姿は、秋の野に凛と咲くその姿そのもの。光を受けて壁に映る影も美しく、暮らしにそっと秋の彩りを添えてくれます。



10 月 額皿 染錦 柿文

価格：50,000 円（税込 55,000 円）

秋が深まり、柿の実が鮮やかに色づく季節。柿は古くから、豊かな実りや福をもたらす縁起のよい果実とされてきました。有田焼を代表する名窯、柿右衛門窯。17 世紀、初代酒井田柿右衛門が生み出した、乳白色の素地に鮮やかな色彩を配する独自の美意識は、ヨーロッパの王侯貴族をも魅了してきました。名窯ならではの気品と、日本の秋の実りを愛でる豊かな心が響きあう、味わい深い額皿です。



11 月 竹一輪挿し

価格：12,000 円（税込 13,200 円）

京都・洛西、乙訓の里。良質な孟宗竹や真竹が育まれるこの地で生まれる、京銘竹の一輪挿し。日本の茶室に、そっと、ささやかに彩りを添える存在です。飴色に輝く艶と端正な姿が、空間に静けさとやすらぎをもたらします。華美ではなく、控えめに。自然の美を愛で、余白を慈しむ。一輪の花と一本の竹に、季節を感じ、心を整える。そこには、日本ならではの美意識が静かに宿っています。



12 月 とんがりサンタ

価格：一体 18,000 円（税込 19,800 円）

木の温もりに思いを込め、ひとつ、また一つ、大人のクリスマスプレゼントとして生まれた木彫りのとんがりサンタ。一本の木から丁寧に少しずつ形になっていく過程は、木の中に隠れていた物語を掘り出していくようだと職人さんは語ります。表情もひげの流れもそれぞれ違うサンタたちが、みなさまのクリスマスに寄り添ってくれることでしょう。